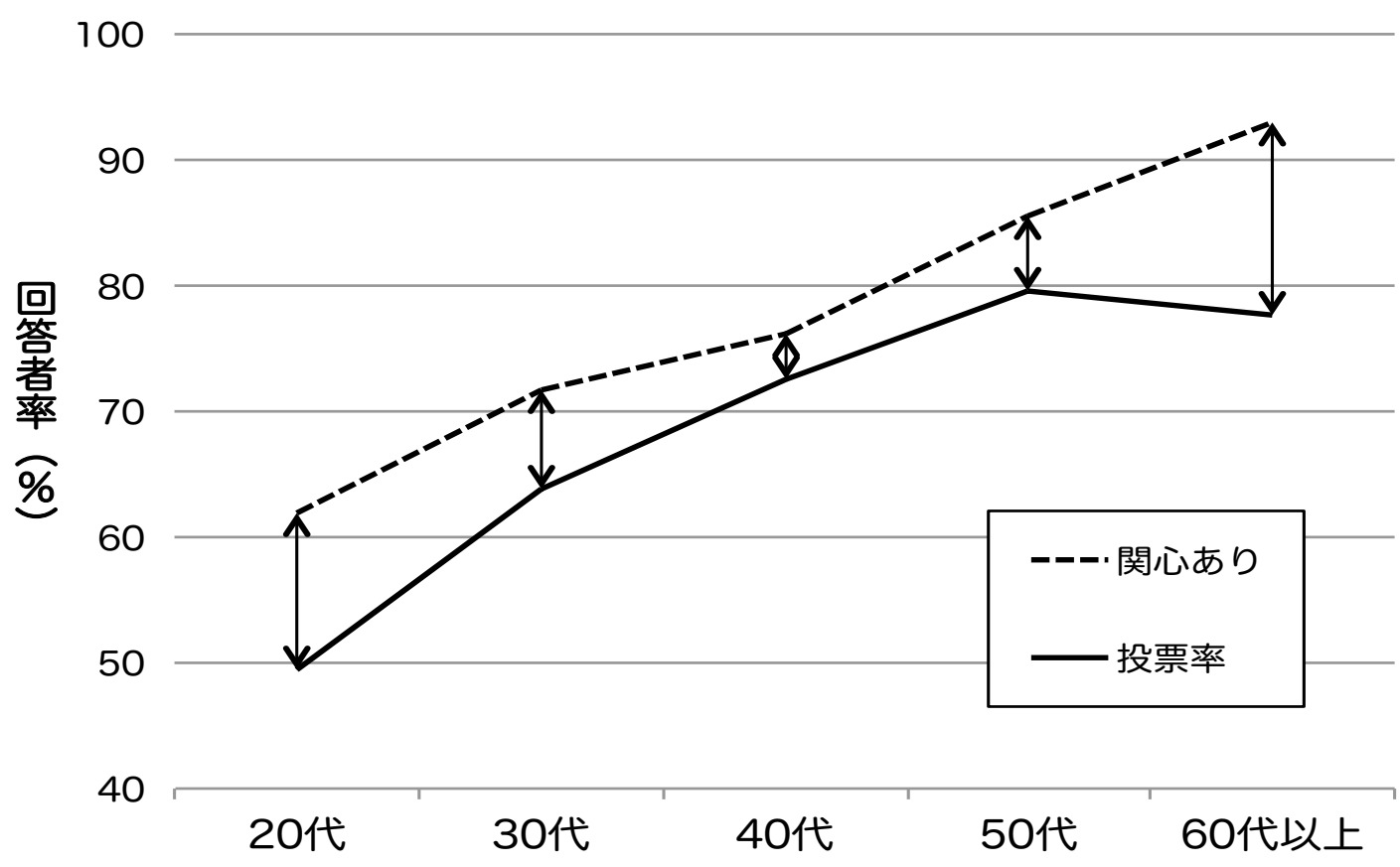


投票参加に関する世代間格差

—政治関心の質的側面に着目して—

秦 正樹（神戸大学大学院・法学研究科 博士課程後期課程 3 年）

はじめに



【RQ】

なぜ世代間によって、政治関心が投票参加に与える効果は異なるのか？

先行研究の整理と検討

- (1) 人はなぜ、政治へ関心を持つのか？
- 政治的社会的帰結 (Campbell et al., 1960)
 - 政治イメージにもとづく関心の変動 (稲増 2009)
- (2) 政治関心と政治参加
- 政治関心と投票参加の比例的関係 (蒲島 1988ほか)
 - ライフサイクルによる加齢効果の重要性 (Highton and Wolfinger 2001)

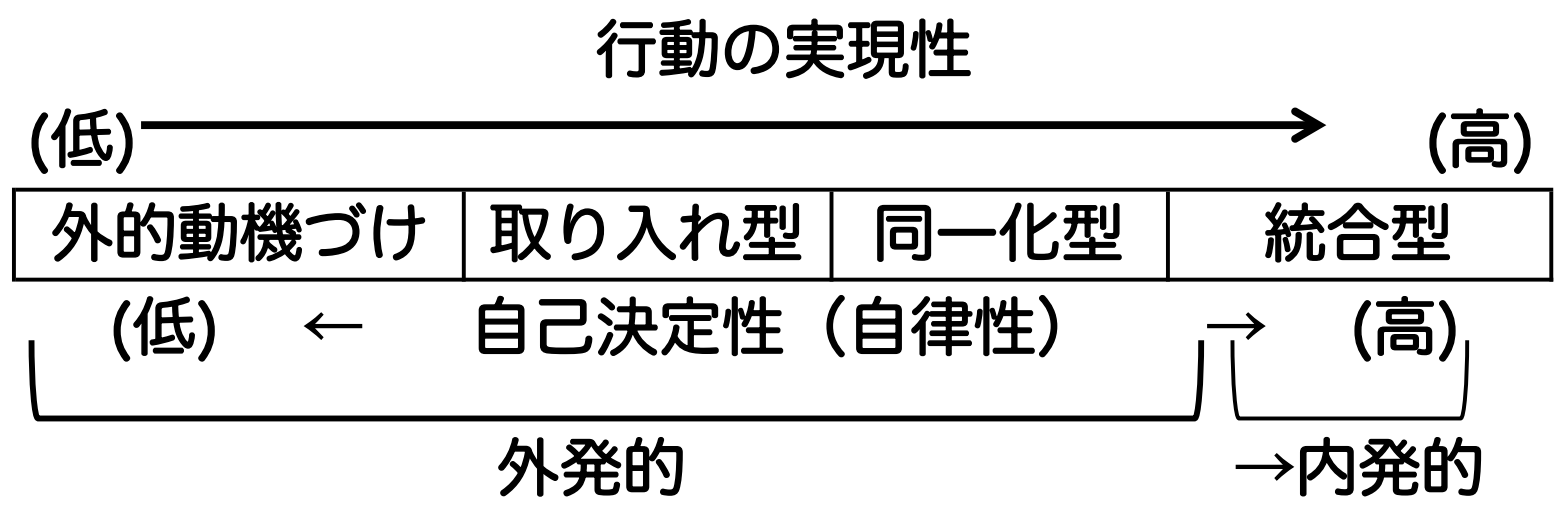
【問題点】

- 政治関心の操作的定義に関する課題
→ 「あなたは、ふだん『政治』に関心がありますか？」では、ここでの『政治』の意味が曖昧すぎる。
- 「政治関心→投票参加」の因果関係に関する課題
→ 先行研究では、理論が不在のため相関化している。
「なぜ、政治関心が高いと投票に参加するのか？」という因果メカニズムが示されていない

分析枠組み

1. 『モチベーション』としての政治関心

- 「政治関心＝投票参加の動機(motivation)」と再定義
- 動機づけ理論にもとづく政治関心の効果を分析
→ 自己決定理論(下図)による動機(Deci & Ryan 1985)



2. 政治関心の質的分解：関心の“方向”に着目

- 関心を向ける方向
 - 全体的関心：『政治空間全体』に対する関心
→ 受動的・抽象的・外発的：社会化・動機（弱）
 - 関与的関心：『自身の参加』に対する関心
→ 能動的・具体的・内発的：ライフサイクル・動機（強）

3. 導出される仮説

- 仮説1：若い世代ほど、全体的関心が投票参加を規定する
- 仮説2：年を経るごと、関与的関心が投票参加を規定する

【全体的／関与的関心の操作的定義：合成尺度】

全体的関心		関与的関心	
① ふだんから政治に関心はある	① ゆとりができれば政治に参加したい	① ゆとりができれば政治に参加したい	① ゆとりができれば政治に参加したい
② 家族・友人と政治的会話をする	② デモなどに参加してみたい	② デモなどに参加してみたい	② デモなどに参加してみたい
③ 新聞・TV報道はチェックする	③ 重要な選挙では極力投票に行く	③ 重要な選挙では極力投票に行く	③ 重要な選挙では極力投票に行く
④ 身近な政治問題には注目している			
クローンバックα .81		クローンバックα .58	

4. 分析の準備

- 全体的／関与的関心と年齢の交互作用項：IV
- 投票参加（1=投票参加，0=棄権）：DV
- 性別・教育程度・年収・職業（正規/非正規/無職）：CV

データと方法

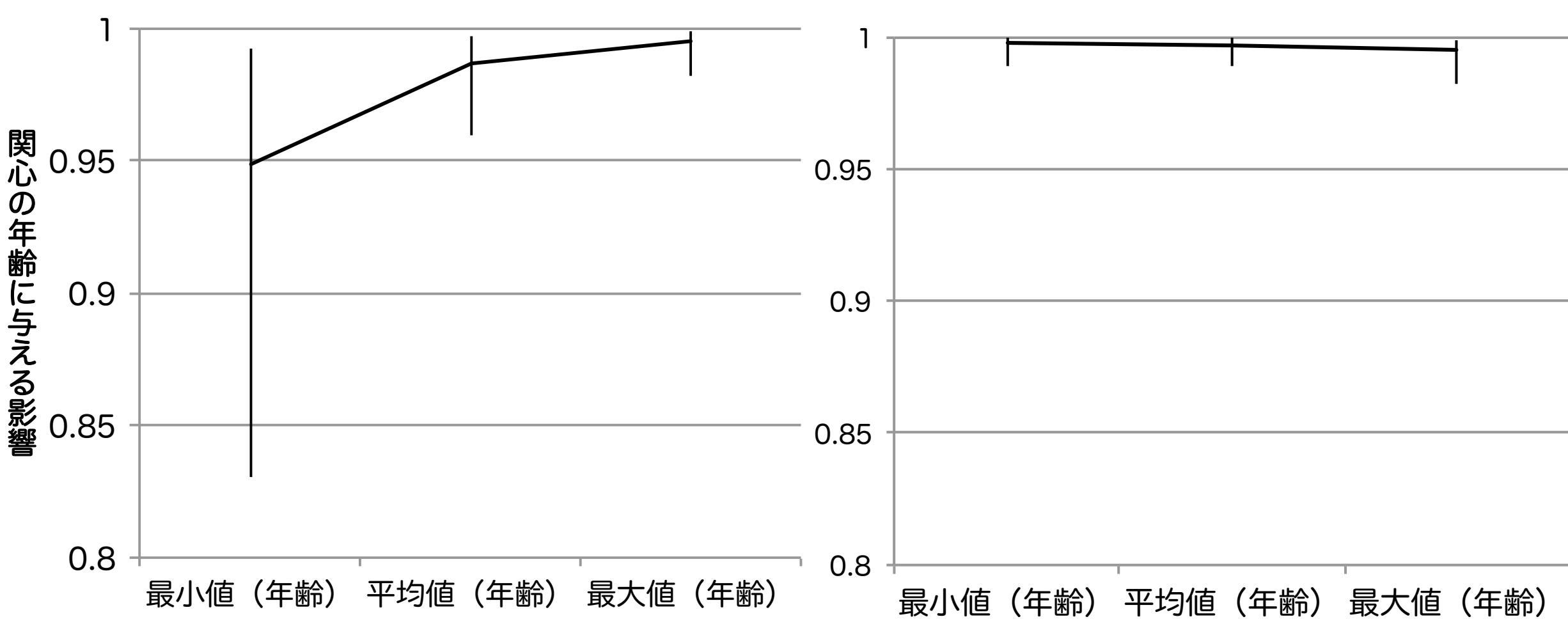
- ☆ 利用するデータ
- ① 調査名 2012年総選挙における有権者の意識調査（WEB調査）
- ② 対象 全国20～79歳の男女 2000人
- ③ 実施時 2012年12月17日～12月21日
- ④ 調査主体 善教（東北大）・坂本（関西大）・秦（報告者）の共同調査
→ (株) 楽天リサーチのパネル利用
- ☆ 推定方法： ロジット推定

分析結果

	モデル1	モデル2	モデル3
年齢	0.604** (0.079)	0.754** (0.089)	0.706** (0.092)
全体的関心	0.564** (0.076)	—	0.107 (0.102)
関与的関心	—	0.903** (0.089)	0.868** (0.112)
全体×年齢	-0.009 (0.074)	—	-0.162 † (0.095)
関与×年齢	—	0.131 (0.088)	0.228* (0.106)
切片	1.855** (0.650)	2.054** (0.710)	2.125** (0.722)
観測数	1583.000	1410.000	1394.000
対数尤度	-697.509	-575.303	-565.033
擬似決定係数	0.125	0.181	0.185

※1) **は1%,*は5%,†は10%水準で統計的有意
※2) 左は係数，右は標準誤差を表す（キー変数のみ表記）

☆ シミュレーション（モデル3）



質的に異なる2つの関心が投票参加に与える影響
(左図：関与的関心，右図：全体的関心)

結論と含意

1. 質的に異なる政治関心の効果

- ①仮説1：△ → 微弱ながら，全体的関心の影響が確認できる
- ②仮説2：○ → 関与的関心の強い効果がみられる

2. なぜ、世代間で投票参加が異なるのか？

- 主に関与的関心の効果が世代間で異なることが主因
 - 若者の投票率向上のためには，内発的な意識づけが必要
- 【課題】 関与的関心の効果が「なぜ」世代で異なるのか？

参考文献

- B.Highton and R.E.Wolfinger (2001) “The first Seven Years of the Political Life Cycle” *American Journal of Political Science*. Vol. 45-1.
- Campbell, A. et al., (1960) *The American Voter*, New York: J. Wiley.
- Deci, E. L., and R. M. Ryan. (1985) *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*, New York: Plenum.
- 稲増一憲 (2009) 『私的領域との関連から政治を捉えるフレームの効果の検討：インターネット調査実験を用いて』2009年日本社会心理学会ポスターセッション。
- 蒲島郁夫 (1988) 『政治参加』，東京大学出版会。